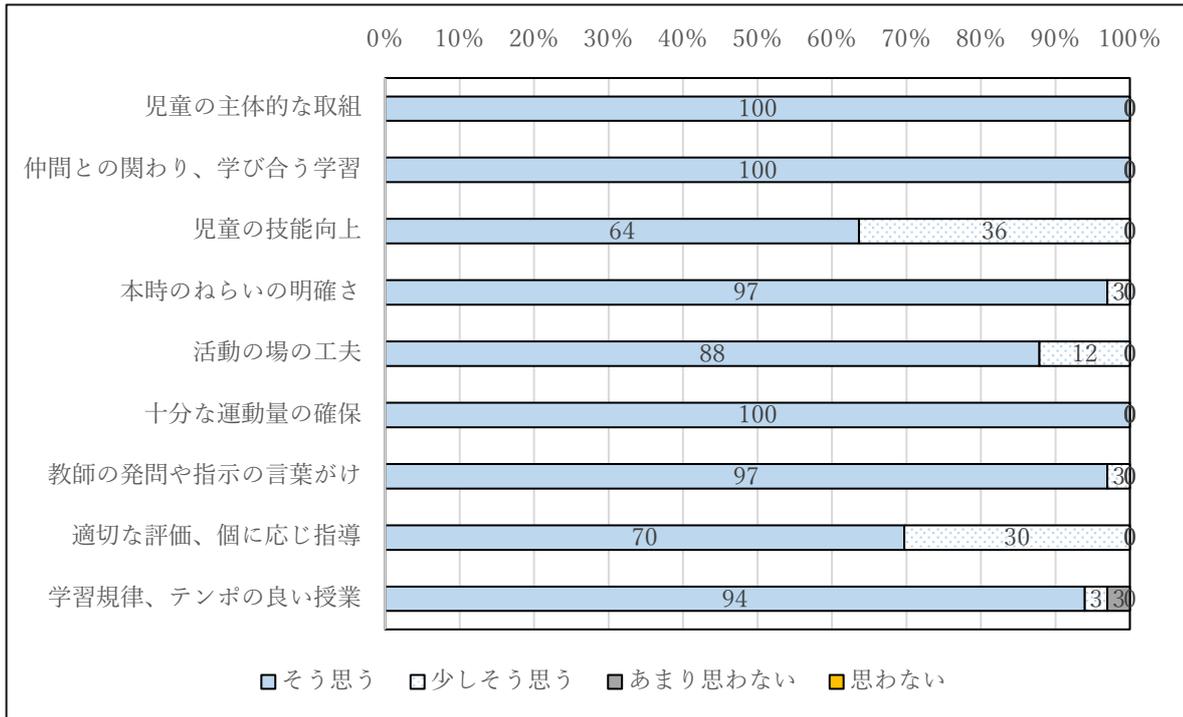


令和5年度小学校体育専科教員による授業研究会（新居浜市立泉川小学校）

令和5年10月4日（水）実施

I 授業参観によるアンケート結果



II 今日の公開授業・研究協議から、どのようなヒントを得ることができたか。

授業づくりについて

- ・ アーティスティックマットという新しい学習を見ることができた。
- ・ アーティスティックにすることで得意な子供も苦手な子供も同じ目標に向かって活動できていた。
- ・ アーティスティックマットを実際に見て、子供たちの主体的な動きや笑顔に心を動かされた。今後挑戦してみたい。
- ・ アーティスティックマットが高学年のマット運動にとっても効果的だと思った。
- ・ 楽しく、自分の持っている技能を生かしながら、運動ができていい指導方法だと感じた。
- ・ 教材との出会いの工夫が大切。
- ・ 授業の構成や、補助資料を効果的に使用することで、体育科が苦手な児童も取り組めることが分かった。
- ・ 学習活動を工夫することによって、マットに対する抵抗感を軽減し、意欲的に取り組めることが分かった。
- ・ 今までのマットの授業のイメージとは違った授業で、できる技をさらにレベルアップさせるという授業内容がとても参考になった。
- ・ 構造的な体育科の授業で驚いた。
- ・ 単元構想と児童の意欲付けの重要性を改めて感じた。
- ・ めあてを明確にするために、どのような過程をイメージして、活動を計画していけばいいのか参考になった。
- ・ 感覚づくり運動を、跳び箱運動やマット運動をする際に実践していきたい。
- ・ 運動の場の工夫のヒントを得ることができた。
- ・ 導入からの細やかな授業の積み重ねの大切さ。具体的なヒントや目標の提示の大切さを学んだ。
- ・ 個別最適な授業の在り方。
- ・ マット運動におけるスムーズな授業の流れ。
- ・ 時間の使い方がとてもすばらしかった。無駄がなかった。
- ・ 児童が主体的に取り組むことのできる授業展開の必要性を強く感じた。
- ・ 運動量を十分確保する。
- ・ 系統立てた指導の大切さを感じた。

- ・ 系統立てた指導。準備運動、マット運動の時期などを合わせて体育館に朝から6時間目まで引いておくことで練習時間が確保できる。
- ・ 個別最適な学びについて、前半に個別練習、後半に生きる活動を行う。
- ・ マット運動が苦手な子供たちでもとても楽しそうにすることができることから、特別支援学級の児童がいたとしても自分ができることで輝けるすばらしい授業だと思った。
- ・ 子供の意欲が上がる声掛け。

グループ活動について

- ・ グループでマットの技を取り組む中で、マットが苦手な子供でもチャレンジできるところが参考になった。
- ・ グループ活動にすることで、個別に練習するより楽しくでき、充実感が持てると思う。
- ・ 1クラスだと、グループに分けて活動しても、十分に運動量が確保できていた。
- ・ 音楽に合わせたグループ演技をすることで、自然と対話が生まれ、思考力、表現力が育まれていたと思う。
- ・ 協働的な学びの大切さを改めて感じた。

ICTの活用について

- ・ 体育科での効果的なICTの活用について学習することができた。
- ・ ICTの使い方について考えることができた。
- ・ ICTの活用方法や準備運動での工夫など、参考にさせていただきたい点が多々あった。
- ・ アピールポイントを伝えてから見てもらうことや、タブレットの活用も参考になった。

評価について

- ・ 評価の大切さやアダプテッドの在り方などが具現化された授業だったので勉強になった。
- ・ ルーブリック評価の効果的な活用など、たくさん学べた。
- ・ ルーブリック評価は見る視点をはっきりして分かりやすい。個人の反省、振り返りが大切。
- ・ ルーブリック評価の適正化について学習することができた。
- ・ 子供自身で授業の目標設定や評価をすること等の方法を学ぶことができた。

体育専科教員について

- ・ 専門性ある指導者がいることで、児童の活動の幅が広がるよい例を見せてもらった。

Ⅲ 指導助言ではどのような内容が参考になったか。

- ・ どの子供が苦手なのか分からないような体育科の活動というのが大切だと思った。
- ・ アーティスティックマットが学習指導要領では、どのように位置付けられているか。
- ・ 褒め言葉のシャワーが印象的だった。
- ・ インクルーシブ教育の重要性が再確認できた。
- ・ 子供一人一人が見通しや役割を持ち、PDCAサイクルを大切にすること。
- ・ 学習指導要領からどのように授業をつくっていくか。
- ・ 一人一人が、見通しと役割を持って授業に参加すること。
- ・ 子供一人一人が「見通しを持って」「役割を持って」「PDCAサイクルを活用して」授業に参加すること。
- ・ 体育科の授業も時代と共に移り変わっていることを知り、自分の中の情報も常にアップデートしていかなければいけないと感じた。
- ・ 学習指導案の見方。
- ・ 見通しを持ち、それぞれが役割を持ちながら、振り返り次に活かす学習形態がこのように子供たちの主体性を高めるのかと考えた。
- ・ 学習指導要領に則った学習指導案の作成の大切さ。基本を大切にしながらも新しいことにチャレンジすることの大切さを学んだ。授業風景の映像を交えてのお話が分かりやすかった。
- ・ 学習指導要領の内容について分かりやすく話していただき、理解が深まった。
- ・ マット運動の技のレベルが分かった。

- 子供が見通しを持って、学習に取り組むことの大切さ。また評価をする人、技にチャレンジする人など、役割を明確にして単元計画を立てていきたい。
- どんな子供も取り残さない指導をしたと思った。
- 見通しを持って、役割をもって、PDCA サイクルで。
- 特別支援学級の子供がいることが分からないほど、みんなが協力して作品作りに取り組んでいた。
- 授業において、一人一人が見通しを持ったり、役割を持ったりすることの重要性について改めて学んだ。
- 評価シートの曖昧な言葉は対話のきっかけになる。
- 運動力確保、個別最適な活動の在り方について。
- 特に子供たちが感じる達成感の部分が考えさせられた。
- 学習指導要領に沿った授業展開についての助言。準備運動のマンネリ化を脱却する方法についての助言。
- 体育科を行う際のポイントや改めて大切なことについて考えることができた。授業を行う際には、子供が主体性を持って取り組むようこれからも努めていきたい。
- 子供が意欲的に活動するための教師の効果的な言葉掛けと相互評価の在り方。
- これからのマット運動の指導法など、とても参考になった。
- 発達段階に応じた目標設定や評価等について、よく分かった。
- ルーブリック評価を他市が行っており、今後研究授業を行う際にはルーブリック評価を取り入れて行くべきだと強く感じた。
- 音楽を効果的に使う。準備体操をルーティン化する。ルーブリックを蓄積させていく。
- 展開での工夫の仕方や、導入の際の効果的な動機付けについてなど、今日の授業も含めてとても勉強になった。
- 子供たちが主体となって体育科学習に取り組むことができるようになるためにどのような工夫ができるのかが非常に分かりやすかった。
- これからの指導に役立つ内容でありがたかった。